

## (1) 総合計画を中心とした市政の課題と成果について

『藤井』

午前中の17番議員の質問に対し、市長1期目の自己評価と政策について答弁されました。斎場問題、企業誘致など目に見えて成果の出ているもの、また、財政面でも経常収支比率や、公債比率等の改善、財政調整基金と減債基金の増等など以前と比べるとよい材料がございます。この面では市長をはじめ市の職員の努力の成果だと考えます。

しかし、市の税収はこの5年間に約5億円減りました。これは、都市計画税廃止や法人税・固定資産税の減少などによります。歳出合計は以前より増えています。平成25年度当初予算265億のうち市税は55億で約20%強です。自主財源すなわち自前の予算合計でも38%です。つまり多くは依存財源に頼っています。国や県に納めた税金が地方交付税や国庫支出金や県支出金という形で配分されているのですが、国も1000兆を超える借金を抱えています。地方交付税等の配分や考え方も状況によって変わってきます。

「入るを計って出を制す」という言葉もあります。「入る」は、本年度予算でも基金からの繰入などやり繰りをしながら確保している状況です。そこで「出を制する」必要があります。しかも、「選択と集中」によるメリハリのある予算が必要となります。状況のよい今こそ、ストップ・財政危機宣言をして見直しのある市政運営が求められています。

石田市長就任の年、倉吉市第11次総合計画ができました。私は、この総合計画こそが市政運営の基盤となるものであり、まちづくりの元だと考えます。そこで、市長に市政の推進にあたっての倉吉市第11次総合計画の位置づけをお伺いします。また、現在、総合計画に沿った計画と予算の一体化がきちんと進んでいると考えておられますか。

『市長』

財政問題を中心として、第11次総合計画を踏まえての11次総の位置づけ計画と予算の一体化ということについてです。

第11次総合計画は、市政の柱、予算の柱となるとなるビジョンであるにとらえています。総合計画は従来は実施計画としての性格で作られていました。私は、市民と共に将来像を描けるビジョンとして総合計画を作っていきたいと考え、話をし、策定作業を進めてきました。

総合計画は、予算ときちんとリンクするものではなくて、将来像をきちっと共有する中で年々の状況に応じて編成作業を進めていく中で整理をしていくこととしています。それを集約したものとして総合計画の実現を目指していくものと考えています。

総合計画は、個別に考えていくものではなく、将来を描く、一緒に取り組んでいく、町づくりとしてのイメージを作っています。そのため、総合計画の中にこういう事業をやっていく、いつこの事業のための予算を組んでいく、財政計画と一緒に作っていくという形はとってはいません。そういう形での整理はしていません。計画と予算の一体化という面ではしていません。予算は予算として編成しながら、11次総の描くビジョンにつながるようなものとして考えています。計画と予算の一体化という面でリンクしていく作業は進めていきたい。予算の中身を市民にもきちんと分かりやすく提供していくといった作業を進めていきたいと考えています。

『藤井』

総合計画についての市長の考えをお伺いしました。総合計画が市政運営で重要であると共通理解しました。

倉吉市第11次総合計画（“くらしよし”ふるさとビジョン）は、基本構想（10年）、基本計画（5年）、実施計画（3年）からできています。ビジョンを達成するためには、毎年の事業の振り返りと事業の進捗状況にあわせて改善していくローリング方式の予算編成が行われていると思います。本年度は、第1次実施計画の最終年です。そして、基本計画の折り返しでもあります。

そこで市長にお伺いします。総合計画の評価と改善にあたって、どのような方法や指標で評価しておられますか。また、評価を踏まえて改善をしていくために何が必要だと考えておられるのかお聞きします。

『市長』

中間点を迎えて、評価をして公表すべきではないかと言うことでした。ビジョンに対して評価をし、公表することは必要であろうと考えています。計画を作ったままではいけない。総合計画の中に成果指標を設けています。その達成状況を市民調査や数値などを用いて、達成状況をとりまとめて評価して公表していきたいと考えています。近いうちにホームページなどで公表したいと考えています。

『藤井』

総合計画については、これからきちんとまとめて公表すると言うことがわかりました。本来でしたら毎年やっていただきたいと思います。鳥取市や米子市では総合計画に関わっての取組状況がホームページ等で公表されています。ある意味、これが市長の自己評価、市政の評価だと思います。市長如何お考えでしょうか。

『市長』

11次総の評価結果の公表については、まもなく公表できるのではないかと考えています。